

ここに注目！ **商店街の空き店舗を新規創業希望者へ提供、
活気ある地域づくりを推進している。**



ポイント

高知県の補助事業で運営しているチャレンジショップを積極的に活用し、新規創業希望者の育成と空き店舗の解消に積極的に取り組み、卒業生3名中2名が商店街内で開業。徐々に空き店舗は減少している。また、ワンコイン商店街を始め来街者の確保と賑わい創出に向けたイベントを、年間を通して積極的に展開するとともに、ドラマ「遅咲きのヒマワリ」のロケ地マップの配布や来街者の案内など、地域ならではのおもてなしあふれる取組は県内商店街のモデルとなっている。

[商店街概要及び取組の背景]

人と人のつながりを大切に

四万十川を望む緑豊かな自然に恵まれた”小京都中村”と称される高知県四万十市において、唯一アーケードを有し、市民に「いちじょこさん」と親しまれ、毎年数万人の人出で賑わう一條神社にも隣接している。上品で趣のある歴史文化と都会では失われつつある「人と人のつながり」を大切にしながら、当市を代表する中核商店街として地域密着型の様々なソフト事業を展開しながら繁栄を続けている。また現在、商店街中央部にある銀行跡の有効活用策について、行政も交えて検討・協議を進めている。

一方、調査結果では、「駐車場不足」「お店が不足」「郊外大型店は魅力的」「品揃えが不十分」という意見があり、対応が必要であった。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

チャレンジャーの育成等

チャレンジショップ事業は、県西部の広い範囲で新規創業希望者を募り、チャレンジャーの育成をきめ細かく行うとともに、中心商店街の空き店舗データを写真



四万十市唯一のアーケード街

入りで作成のうえ、家主と接触し家賃面でも有利な条件を引き出すなど、空き店舗の解消に役立っている。

また、ワンコイン商店街は県西部では同商店街だけの取組であり、おかみさんまつりやアーケード内の日曜日開催なども合わせ、広範囲からの集客につながっている。

さらにドラマ関連の取組も、隣接する商店街などと連携し、地元ならではのおもてなし精神で、収録の様子などを来街者にきめ細かく提供している。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

卒業生の出店

チャレンジショップは、卒業生3名中2名が同商店街内で開業し、空き店舗の解消が進んでおり、チャレンジャー募集と併せ、地域全体にショップの広報を行うことで、ショップ及び商店街の周知につながっている。

また、地域で最大のお祭りや併せたイベントなど、周囲との連携や、従来イベントの反省を活かした新たな企画などで、集客の向上に努めている。ドラマ関連の取組では、観光客へのおもてなしとともに、県・市の協力のもと、制作会社へ続編の制作や再放送の依頼も行うなど、地域全体の取組へと進化している。

[実施体制]

多様な主体との連携

チャレンジショップ事業やドラマ関連の取組においては、県・市・商工会議所との密な連携のもと、運営及びチャレンジャー募集、広報活動など効果的・効率的な事業実施に取り組んでおり、同商店街への出店は、チャレンジショップの卒業生や、その他の新規出店などで、空き店舗は大幅に減少している。

また、イベントについても女性部によるおかみさんまつりや、商工会議所青年部による県西部では初となるよさこいイベントの開催に協力するなど、役割を分担することで、特定の役員の負担にならないような体制としている。イベントの財源についても、県・市の補助制度などを活用することで、組合の負担が増大しないような取組となっている。

基本データ

所在地：高知県四万十市中村天神橋

会員数：35名

店舗数：36店舗

関連URL：<http://tenjinbashi.web.fc2.com/>



ドラマ続編要望の署名活動、
目標の40010(四万十)を突破

快適な空間を目指して

今年度は、チャレンジショップやヒマワリのイベントの他にも、まちづくり補助金を活用したアーケード交流空間整備事業で、照明器具のLED化・太陽光パネルを活用した常夜灯と防犯カメラを設置。また、にぎわい補助金を活用し、近くにお住まいの方や、職場の近い方を対象に、商店街のお店をまわっていただくツアー「えいもん事業」を実施しました。たくさんの新たな取組を実施したことでイメージアップが図れ、復活の第一歩を踏み出せたと思います。

今後は、買い物の目的がなくても「天神橋でも行こうか」と頭に浮かぶような街にするために、商店街のどこかに、地元の方だけでなく、観光客の方も時間を過ごせる空間をつくれぬか検討中です。店主の高齢化も気になるところです。仮に廃業するお店が出て、長期の空き店舗にならないよう事前に準備をし、即対応できるように対策を練っておきたいと考えています。色々な店があること、変化があること、快適な空間であることが、街を残す絶対条件だと考えています。

キーパーソン



天神橋商店街振興組合
理事長 國吉 康夫

組合一丸となつての取組

2013年度は、商店街にとっての活性化メニューが豊富で、積極的に活用したのですが、ちょっと欲張りすぎて忙しすぎた一年でした。

平成10年と13年に大型量販店がオープンして以来、通行客が激減していますが、その原因になったのが有力なテナントの郊外移転でした。まずは、空き店舗対策が一番重要であると位置づけて、組合の主要メンバーが一丸となってチャレンジショップに取り組んでいました。そこに「遅咲きのヒマワリ」のドラマが舞い込み、さらに「にぎわい補助金」「まちづくり補助金」と魅力的な活性化策のお話があり、すべて手を上げてしまったために役割分担が大変でした。特に遅咲きのヒマワリのドラマ対応は急遽のスタートで、ロケ地マップの作成や続編制作要望の署名活動(目標40010人)、ヒマワリ作品展の開催など、次から次へとやるが増え、1日48時間ほしくらいでした。